暦應三年十一月八日　　右馬（斯波高經）頭　在判

得江九（頼員）郎殿

十一月。能登の士得江頼員、越前に於ける軍忠を具申して吉見頼隆の證判を求む。

【得江文書】　三〇〇

得江九郎頼員申越前國軍忠事

一、今年暦應三九月十二日取陣氏江岡、翌日十三日押寄府中追落凶徒訖。

一、同廿二日夜廿刻令夜討大塩城、焼拂麓追落城郭、翌日廿三日辰刻令追落妙法寺城并松鼻城・平葺陣脇屋殿被籠之訖。是等之次第、軍奉行土田十郎右衛門尉見知訖。

一、同十月十九日押寄畑城致合戰、同廿一日打破一二木戸、焼拂麓城、至于同廿六日頼員致軍忠之處、翌日廿七日畑六郎左衛門尉參御方之間、破却城郭訖。

一、同日廿七日押寄糸崎城之時、城中凶徒等參御方訖。是等之次第、侍所治田太郎見知訖。然者下賜御證判、爲備向後龜鏡、恐々言上如件。

暦應三年十一月　日　　承（吉見頼隆）了　在判

（九月廿三日松鼻城とあるは、暦應三年九月の條に松崎城に作れり。又治田を沼田とするものあれども、影寫本に據るに治なるものゝ如し。）

十一月。能登の士得江頼員、越前に於ける軍忠を具申して證判を求む。

【得田文書】　三〇一

得江九郎頼員申越前國軍忠事

一、今年暦應三八月一日馳向金津上野致合戰、令對治凶徒、則攻落同所城、至于勝蓮華宿追落御敵等、焼拂在所訖。

一、同三日押寄三國湊千手寺城西面、渡堀越塀致戰功、攻落彼城訖。

一、同十七日構向城於藤嶋内丸岡之處、自黒丸之城凶徒打出之間、馳向一陣致合戰、追籠御敵於城中、抽日々軍忠、同廿日押寄黒丸城大手、頼員不惜身命攻戰之刻、中間源四郎被疵右足射疵隨而追落彼城訖。

一、同九月十二日取陣於氏江岡、翌日十三日押寄府中追落凶徒訖。

一、同廿二日夜廿刻令夜討大塩城、焼拂麓追落城郭、同廿三日辰刻追落妙法寺城・松鼻城并平葺陣脇屋殿被籠之訖。

一、同十月十九日押寄畑城致合戰、同廿一日打破一二木戸、焼拂麓城、至于同廿六日頼員致軍忠之處、翌日廿七日畑六郎左衛門尉參御方之間、破却城郭訖。

一、同日廿七日押寄糸崎城之時、城中凶徒等參御方訖。

右毎度軍忠至極之上、於侍所金持三郎兵衛尉實檢訖。然者且被經御注進、且下賜御證判、備弓箭面目、彌爲抽軍功、恐々言上如件。

暦應三年十一月　日　　承了　在判

（この文書の證判は斯波高經と聊か異なり。その何人なるやを知らず。）

興國二年　暦應四年　辛巳　京都　紀元二〇〇一

二月廿六日。幕府、斯波高經をして、山城臨川寺領加賀郡大野莊の年貢の越前敦賀・若狭小濱に到着せるものを警護せしむ。

【臨川寺文書】　山城　三〇二

臨川寺領加賀國大野庄年貢事、著岸敦賀・小濱津者、無違亂之樣可被沙汰之狀、依仰執達如件。

暦應四年二月廿六日　　右馬（斯波高經）頭殿　　武藏（高師直）守　在判

三月二日。中院良定、武家方を討たんとして能登の士得江頼員の從軍を促す。

【得江文書】　三〇三

袖判（中院右中將）

爲朝敵對治御發向候之處也。急參御方、奉義炳被致忠節者、可有忠賞之由、中院右中將家依仰執達如件。